

**「第 3 期京都市市民参加推進計画 骨子案」についての
市民意見募集（パブリック・コメント）の実施結果について**

1 募集期間

令和 2 年 1 2 月 2 5 日（金）～令和 3 年 1 月 3 1 日（日） 3 8 日間

2 周知方法

- ① 市役所庁舎案内所，情報公開コーナー，区役所・支所，図書館，市民活動センター，コワーキングスペース等市内各所で意見募集冊子を配布
- ② 市ホームページ，市民参加ポータルサイト「みんなでつくる京都」に掲載
- ③ アプリ・SNS・メーリングリスト等を活用して周知
 KYO-DENT，みんなでつくる京都 SNS，市民参加推進フォーラム OB・OG，シビックプライドランチ（有志の対話の会）参加者等へのメール
- ④ YouTube による骨子案説明動画の配信
 京都市公式パブリック・コメントチャンネル「京ぱぶ」開設
- ⑤ 対話型パブリック・コメントの実施
 （授業参加型）京都光華女子大学，同志社大学，同志社中学校
 （イベント型）ユースサービス協会共催イベント，フォーラム主催市民公募委員サロン
 （地域参加型）地域景観づくり協議会の会合で実施（2 件）
- ⑥ 市民による自主的な活動
 パブリックコメント普及協会主催 オンラインパブコメイメント
 市民参加推進に取り組む有志による意見募集冊子配布 等

3 募集結果

3 6 3 名，4 7 3 件

(1) 性別・年齢別

	20 歳未満	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	不明	合計
男性	2	9	12	34	8	21	3	0	89
女性	1	16	7	9	4	2	1	0	40
その他	0	0	0	3	3	0	0	0	6
不明	140	66	0	0	0	0	0	22	228
合計	143	91	19	46	15	23	4	22	363

(2) 居住地別

	京都市内	京都市外	不明	合計
人数	109	12	242	363

(3) 提出方法別

	Web フォーム	郵送・FAX	その他(※)	合計
人数	114	20	229	363

※対話型パブコメ，授業内提出等

(4) 項目別（件数）

項目	件数
骨子案の全体像	60
I 計画の位置づけと計画期間	7
II 社会情勢の変化	38
III 策定のポイント	97
IV 推進施策 基本方針 1	87
IV 推進施策 基本方針 2	163
IV 推進施策 基本方針 3	101
V 計画を着実に進めるための推進体制	45
その他	94

※複数の項目にまたがる御意見があるため，各項目の総和は意見件数と一致しない。

4 御意見から抽出された計画本冊子に取り込む主な考え方，キーワード 等

【選定基準】

- (ア) 提言書等でも議論されてきた内容
- (イ) 用語の説明，表現上の工夫等
- (ウ) 複数の方からいただき社会的ニーズの高そうなもの
- (エ) 新たな観点で重要と思われるもの

<主な意見>

(1) 骨子案の具体化に関するもの

【総括・評価・背景など】

- これまでの市民参加の総括、評価とそこから見える成果と課題を示すべき。
- 過去の「京都市市民参加推進計画」の総括、評価がない。どんな効果や変化があったのか。過去の取組を総括してこうしていくということが示されていない。過去を振り返らずして果たして実行・実効力あるものになるのか。
- 3期計画は、前期までと何が変わらなくて何が変わるのかを社会情勢の変化を踏まえて示せば、より今日的な意義が伝わる。

⇒ (ア) 計画本冊子で、成果と課題、分析など、総括的な評価を記載

【位置付け、策定経過】

- 「京都市市民参加推進計画」の趣旨が、市の策定する諸計画や実施する各事業において、貫徹していることが求められる。計画の位置付けの図にもう一工夫必要。

⇒ (ア) 市民参加推進計画が市政全ての分野に通じる基本原理であることが分かるよう記載

- 本件計画それ自体の制定に市民の参加があったのか。

⇒ (ア) 計画冊子の中で、本計画策定に関わっていただいた市民の方の意見やトークセッションの様子等を紹介

【施策の具体化、指標など】

- 施策の具体例、効果、イメージが湧かない。
- 理念の素晴らしい計画だが、それだけでなく、計画である以上目標値があってもいいのではないか。
- 示されている内容が「骨子案」の性質上、当然なのだが、理想的・定性的である。これから策定される「推進計画」においては、「推進」場合には「後退」も含めて、定量的に測定可能な指標を設定し、またその具体例を「コラム」のような形で示すような「計画」の進捗状況が、市民目線で分かる工夫を、ぜひともして頂きたい。

⇒ (エ) 計画本冊子の中で、目指すべき指標、施策の推進例について記載

【定義・文言・図に関するもの】

- 最初に図があるのが分かりやすい。基本方針×フェーズの構成が読みやすい。

⇒ (ア) 計画本冊子でも、最初に概念図を示し、そこから各基本方針等の詳細にリンクするような構成を継承

- 全体的に一文が長く、修飾語が多用されていて本当にいいことが分かりにくく残念（短文の項目名と合わせて理解しようとした）。盛り込みたい内容が多

いということは理解できるが、一般市民にも読ませたいのであればもう少し簡潔な文章にならないか。

⇒ (イ) 計画冊子でも、文章構成、図・デザイン等工夫するとともに、ハンドブック、タブロイドのような形の発信をあわせて検討

- 言葉が難しい、分からない。
- 世界文化自由都市宣言やレジリエンス戦略など一般的には認知されていない。
- 分かりやすく伝えることはもちろん、対象に情報を行き渡らせることを重視されていて良い。「届けたい対象にしっかり伝える」ということは、伝える対象によって文字の大きさやカタカナ言葉（パートナーシップやイノベーションなど）に注釈をどこまで入れたり、他の言葉で代替したりしていくのか、といったことにも配慮していくことができればよい。
- 「多様な主体」には、外国人住民や外国にルーツのある日本人なども入っているか？より多くの方に関わってもらうことが重要。
- 次世代、とは具体的にどこの世代の事か。
- SDGs とは何なのか、達成目標とはどういったものなのか。
- 市政への参加の定義がわかりにくい。市政参加というが、何をもって参加なのか。

⇒ (イ) 各種用語について、定義の必要な用語や一般的でない用語について、凡例、注釈、関連コラム等を追記

(2) 次世代への裾野拡大に関するもの

【授業等との連携に関するもの】

- 裾野の拡大について、小さい頃から学んでいけば興味が湧く。授業に取り入れていくことによって自分達も参加出来る事を知られる。
- 学校やその他の教育機関と連携し、小中高の授業の一環として京都市について考えたり、情報発信を行う時間を作ったりするのが良い。

⇒ (ア) (ウ) 大学や学校との連携について重点的な施策として記載

【参加のしやすさ、デザイン】

- 得意な分野や興味のある分野に必要な時だけ参加できるようにしてほしい。
- 子育て世代は、仕事、育児で忙しく市民参加する時間がないが、参加することで、地域がよくなる。子育て世代に向けた参加の工夫が必要。

⇒ (ア) (エ) 誰もが参加しやすいでデザインの施策の中で、必要に応じて短時間や少しだけの参加ができるような、幅のある参加形態の工夫を記載。

【つながりづくり】

- 参加を広げるといった場合、全く参加していない人を参加させることに限らず、

既に活動している人の繋がりを活かして、活動の輪を広げたり、仲間を増やしたり、はたまた次世代を担う中心的人物の育成やそういった人との関係づくりなどこそ、裾野拡大の本質ではないでしょうか。

- より多くの意見やアイデアを得るためには、ファシリテーターは欠かせない役割だ。職員の方が大学への出講だけでなく、中学校の授業でファシリテーターの役割を教えたりするなど、若いうちから市政参加に興味を持ってもらうためにも必要だと思う。今後市民の皆さんが年齢関係や立場など関係なく、ファシリテーターの役割を担えるようになればいいなと思う。

⇒ (ア) (エ) 人づてによる情報発信の活用や、市民の中でのファシリテーターの活用・育成などについて記載。

(3) 対等な立場での対話、協働に関するもの

【安心、信頼のある対話】

- 安心や信頼につながる対話がどのように行われるのかが分からないが、そんな仕組みや工夫が行われることを期待している。
- 安心安全で話しやすい対話とは、対等の立場とはどういう意味か。
⇒ (イ) 対話の定義を示すとともに、対話の場における心理的な安全性の担保のためのルールなどについて記載。

【市民の行動について】

- 市政に関心をもったとき、どうすれば良いのか。市役所内部の事業だけでなく、私たち市民向けのノウハウや発信が計画の中にあっても良いのではないか。
⇒ (イ) 興味を持って頂いた市民の方が具体的な参加の方法を知っていただくため、計画冊子にも、市民参加ポータルサイト「みんなでつくる京都」のリンクを掲載。併せてハンドブック、タブロイドのような形の発信を検討。

【まちづくりを支える仕組み・支援】

- 新型コロナの影響で、学区の活動がほとんどできていない。高齢者が主体の自治連ではオンラインへの対応など難しいのではないか。
⇒ (ア) 推進施策の重要な取組例として、地域へのオンライン支援を記載。
- 企業などと連携する場合、Win-Winの関係が築ける道筋はあるか。
⇒ (エ) 重点的な施策例として、社会課題をとらえて、ビジネス等のニーズとも結びつけられるような新しい市民参加、公民連携の仕組みを記載。
- まちづくりに取り組むメリットが見えない。
⇒ (エ) 短期的なメリット（求めている情報が得られる、楽しさを感じる、つながりが持てる）と長期的なメリット（自分たちが暮らすまちが良くなる、市民としての生き方を学べる）について、まちづくりや市政参加の説明の中で記載。

(4) 職員・体制に関するもの

- 「変革に挑戦する組織づくり」というのは、述べるのは簡単だが、これまで培ってきた組織体制を変革するという部分において非常に難しい課題である。「成果の見えにくいことへの挑戦」というのも素晴らしい取り組みだとは思いますが、具体的にどのような取り組みのことを指すのか、また後にどのような方式で評価するのか、その部分が曖昧である印象を持つ。
 - ⇒ (ア) 成果の見えにくいことへの挑戦について、事業化する前の状態の課題やテーマにスピーディーかつ実証的に取り組む庁内体制の構築を記載。
併せて、このような取組と人材の育成を連携することで、組織文化として醸成することを記載。

- 行政や市職員が、まちづくり活動をする者に、しっかりと寄り添う姿勢が大事ではないか。
- 市民が市政参加に主体的に進んで取り組むのが理想だが、職員が地域に出向くことによって、市民も心を開き情報を受け入れやすいと思う。また、職員側からも出向くことによって、多くの市民の方の意見やアイデアを聞くことができるというメリットがある。
 - ⇒ (ア) 市民と職員との対話の施策において、市民が活動する場に積極的に出向く取組などについて記載。

- 信頼を築くには一緒に活動することだと思う。住んでいる場所の町内会に限らず、職員の方にはどんな形であれ、社会活動に参加してほしいと思う。
- 職員が地域社会へ出て活躍することも推奨している計画で、望ましいことだと思う。推奨するからには、地域に出た職員を評価する制度もしっかりと構築してもらいたい。
 - ⇒ (ア) 地域で活動する職員の具体的な評価や地域に出る職員の奨励について記載。